令和7年度　学力向上プラン

長崎市立福田小学校

学校教育目標

心を満たし、「夢や願い」を叶える　福田小学校　合言葉　見つめよう、認めよう〈自分も相手も〉

夢や願いを叶えるための活動

◇　夢広場の設定
　毎年児童の夢や願いを書いたカードを掲示する。

◇　学期ごとのめあて設定と振り返り
　同じ項目について学期ごとのめあてを立てる。立てためあてに対する振り返りを適宜行う。

◇　ゲストティーチャーの招聘・活用
　総合的な学習の授業に、それぞれの分野の専門家を呼び、講話を聴いたり、体験活動を通して学んだりする。

校内研究の充実

研究主題
「夢の実現に向け、
　　生き生きと学ぶ子どもの」
～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり～

◇　授業改善
　主体的・対話的で深い学びを目指すために「こだわり」をもった授業づくりを行う。
↓
めあて・見通し、学びの選択、対話、振り返り等

◇　研究授業後のリフレクションを、以後の授業でどれだけ実践できているかを確認する。

全校で取り組む学力向上

◇　語彙力を高める取組
　・朝の読書習慣
　・学級文庫の設置

◇　家庭での学習の充実
　①　実践的な問題に取り組む。
　②　Qubena の活用
　③　学力の土台作り

◇　UD の授業作り
　　教師用スタンダード

◇　学習のねらいにそった１人１台端末の効果的な活用

◇　学力調査による児童の学力の検証及び対策

学年毎の具体的な対策

<3年>
〇相手に質問をする際の話型の定着を図る。
〇既習の漢字を、普段の授業や日常生活で使っていく。
〇文章問題を図や表、線分図などで書き表す指導を行う。
〇図形の学習では、実物操作を行う。
<4年>
〇隙間時間に読書を取り入れていく。
〇時間を設定して、短時間で文章を読んで答えるような問題に取り組ませ、集中力を高めていく。
〇正確に九九を唱えることができるよう、宿題を出す。
〇表や図の中に数値を書き込んだり、言葉の式や図を用いたりしながら、数量関係を正しく捉えられるようにする。
<5年>
〇授業中に対話を積極的に取り入れる。（伝えたいことを分かりやすく、まとめて話すということを意識）
〇漢字の習熟、主語と述語・修飾語の理解に向け、プリントやキュビナでの復習、文書きを行う。
〇数量関係を正しく捉えられるよう、表や図の中に数値を書き込んだり、言葉の式や絵図を用いたりする。
〇算数だけでなく、その他の教科でもグラフや表の読み取りを授業の中で行う。
<6年>
〇話し合い活動中に、今、話題にしていること、問われていること、今から考えること、取り組むこと、友達が話した内容などを復唱したり、確認したりする時間を設ける。
〇なぜそうなるのか、そう考えるのか、答えに至るまでの過程や考え方を、図や式や数や言葉を用いて「書く」時間を設ける。
〇「実験」及び問題解決の過程を「表現」する時間をより大切にしていく。

地域との連携

◇　福田サポーターの活用
　　得意な分野での児童の活動支援
◇　開かれた学校づくりの推進
◇　幼保小、小中連携の推進

家庭との連携

◇　福田っ子スタンダード
　　学習に臨む心構え（学習態度、準備物等）
　　家庭学習について
◇　「よくわかる！福田小」の作成、配付

集団の中で「持ち味」をどう生かすか　協働性を育む学年学級経営

一人一人の「①知識・経験」、「②マインドセット（意識、思考様式）」、「③性格特性」を把握

上段：国語科　　下段：算数科
〇：良い点　　▲：課題

3年児童の実態

〇自分の思いや考えを、自分の言葉で書き表すことができる。
▲話し手の話に関心をもち、質問している。
▲漢字を正しく書いている。
▲共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。

〇九九の定着。
〇減法の立式ができる。
〇水のかさ（１L＝１０dL）、単位換算（１時間＝６０分）ができる。
▲乗法の式に合った文章問題を選ぶことができる。
▲直方体を作るときに示された面がいくつ必要かを理解している。

4年児童の実態

▲基礎的・基本的な漢字や言葉の知識が低い。
▲文章問題の正答率が低い。

〇足し算引き算の計算ができる。
▲桁の大きな掛け算・割り算の正答率が低い。
▲数字の位取りや繰り上がり繰り下がりができていない。
▲基礎基本が身に付いていないため、応用問題の正答率が著しく低い。

5年児童の実態

〇考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
〇物語文を「読むこと」。
▲友達とのインタビューアドバイスを基に、分かりやすく質問したり、伝えたりする。
▲漢字を文章の中で正しく書く。
▲主語と述語の関係などに注意して文章を書く。

〇式の意味を理解できる。
〇大きな数の大小を比較できる。
▲〇や□を用いて立式できる
▲基準量・比較量を捉え適切に表現できる。
▲表やグラフを読み取って数値を求めたり、データを分類整理したりできる。

6年児童の実態

〇話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
〇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

〇棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
〇小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる。
▲目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
▲示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。
▲基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる。
▲分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる。
▲はかりの目盛りを読むことができる。